

(2) 水環境の状況

ア 水 象

(7) 海域における潮位

名古屋港の潮位は、表 1-4-4 及び図 1-4-10 に、名古屋港検潮所の位置は、図 1-4-11 に示すとおりである。

名古屋港の潮位は、名古屋港基準面 (N.P.) に対して平均水面+1.40m、朔望平均満潮面+2.61m、朔望平均干潮面+0.04mであり、潮位差は 2.57mである。

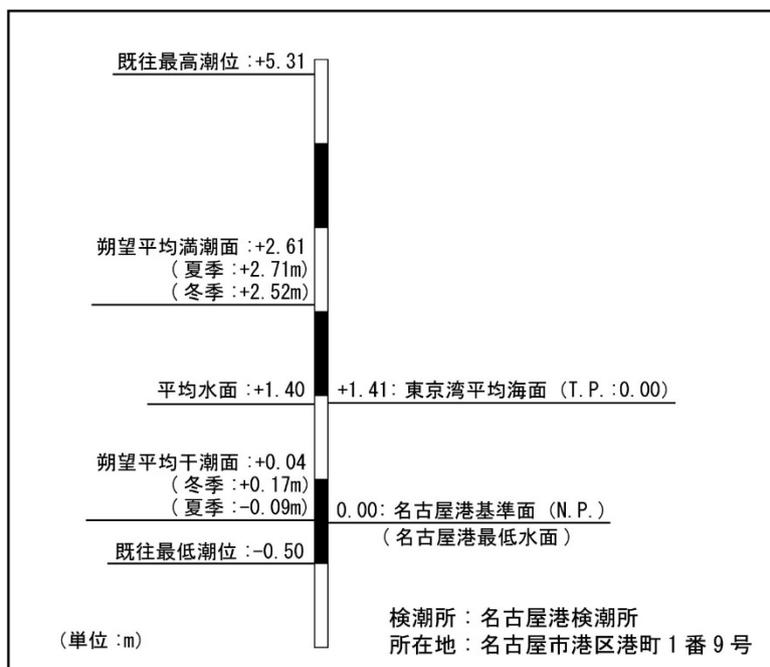
また、過去の既往最高潮位は+5.31m (昭和 34 年 9 月 26 日、伊勢湾台風)、既往最低潮位は-0.50m (平成 2 年 12 月 4 日) である。

なお、東京湾平均海面 (T.P.) は、名古屋港基準面の+1.41mとなっている。

表 1-4-4 名古屋港の潮位

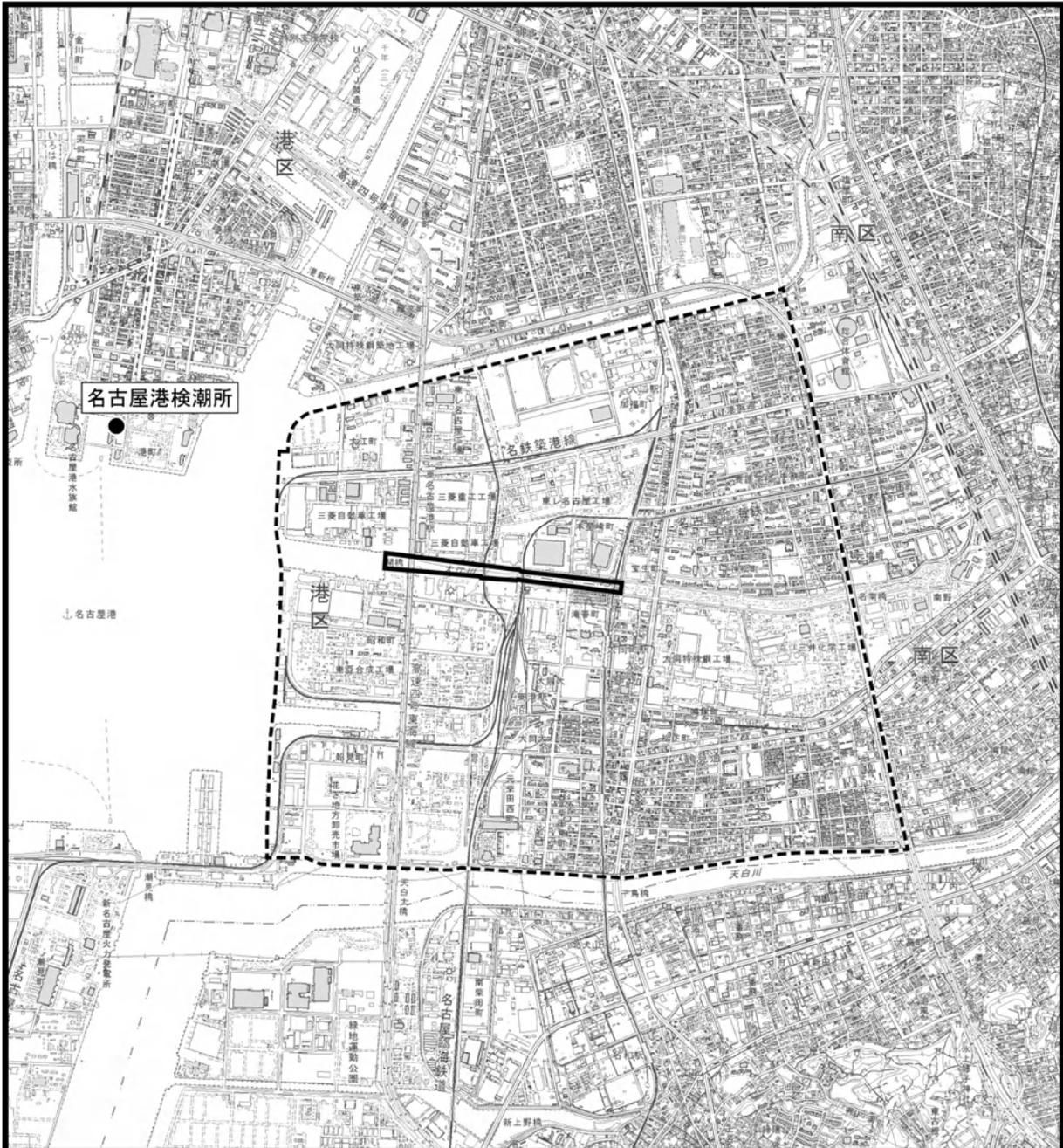
| 潮位種別 | 潮位 (m) | 観測時 | 備 考 |
|---------|--------|-----------------------------|--|
| 朔望平均満潮面 | +2.61 | 昭和 23 年～昭和 31 年 観測平均 | 夏季 (5 月～10 月) : +2.71m 冬季 (11 月～4 月) : +2.52m |
| 朔望平均干潮面 | +0.04 | 昭和 23 年～昭和 31 年 観測平均 | 夏季 (5 月～10 月) : +0.17m 冬季 (11 月～4 月) : -0.09m |
| 平均水面 | +1.40 | 昭和 43 年 5 月～ 昭和 44 年 4 月 | 海上保安庁水路部決定 |
| 既往最高潮位 | +5.31 | 昭和 34 年 9 月 26 日 | 伊勢湾台風 |
| 既往最低潮位 | -0.50 | 平成 2 年 12 月 4 日 | — |

出典)「名古屋港の潮位」(名古屋港管理組合ウェブサイト)



出典)「名古屋港の潮位」(名古屋港管理組合ウェブサイト)

図 1-4-10 名古屋港の潮位



- 事業予定地
- 調査地域
- 検潮所



0 350 700m
1/35,000

注) 本図面は、調査地域周辺の名古屋港検潮所の位置がわかるよう、縮尺を3万5千分の1としている。

図 1-4-11 名古屋港検潮所の位置

(イ) 海域における潮流

伊勢湾の上げ潮時及び下げ潮時の潮流は、図 1-4-12 に示すとおりである。

伊勢湾及び三河湾西部の潮流は、ほぼ地形に沿って流れている。上げ潮流は湾奥へ向かい、下げ潮流は湾口に向かって流れている。外海から湾内に向かう潮流は、伊良湖水道で、神島寄りを通過する流れは伊勢湾に向かい、伊良湖岬寄りを通過する流れは三河湾へ向かって流入する。

流速は、伊良湖岬寄りから中山水道を通過して三河湾へ向かう流れが強く、神島寄りから知多半島西岸沿いを通過して伊勢湾奥へ向かう流れは弱くなっている。

伊勢湾における潮流の主流部は、ほぼ知多半島の西岸に沿って流れ、湾奥に向かうに従って流速は次第に弱まっている。

(ウ) 河川

調査地域及びその周辺の河川の状況は、図 1-4-13 に示すとおりである。

調査地域には、大江川が流れている。また、調査地域の北側には山崎川及び堀川が、南側には天白川が流れている。

なお、事業予定地は大江川に位置する。

注)1: 図中の矢印は、海面下 5m 層の潮流の流向及び流速 (kn) を示す。
 2: 本図面は、伊勢湾全体の潮流の状況がわかるよう、縮尺を調整している。



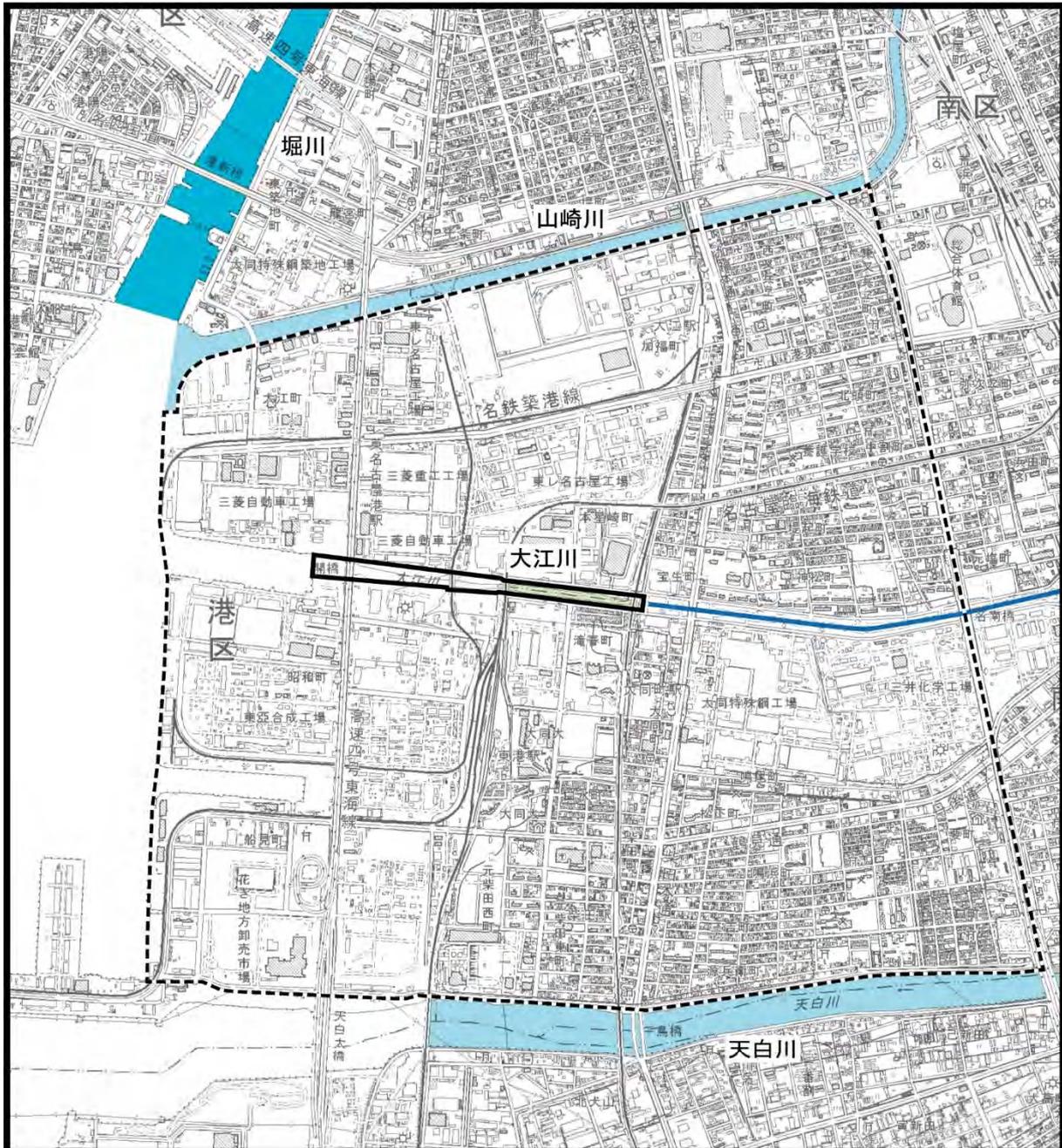
出典) 「伊勢湾潮流図」(海上保安庁, 平成 16 年)

図 1-4-12(1) 伊勢湾の上げ潮時の潮流図



出典)「伊勢湾潮流図」(海上保安庁, 平成 16 年)

図 1-4-12(2) 伊勢湾の下げ潮時の潮流図



-  事業予定地
-  調査地域
-  1級河川
-  2級河川
-  普通河川
-  普通河川 (暗渠)



出典) 「河川図」(名古屋市緑政土木局, 平成 31 年)
 「庄内川水系堀川圏域河川整備計画 (名古屋市策定)」(名古屋市ウェブサイト)
 「山崎川水系河川整備基本方針 (名古屋市策定)」(名古屋市ウェブサイト)
 「天白川水系河川整備計画 (愛知県、名古屋市策定)」(名古屋市ウェブサイト)

0 250 500m
 1/25,000

図 1-4-13 河川図

イ 水 質

(7) 河川及び海域

調査地域及びその周辺における水質調査地点は図 1-4-14 に、調査結果は表 1-4-5 に示すとおりである。

令和 2 年度の調査結果では、生活環境項目で環境基準もしくは環境目標値に適合していない項目がある。なお、健康項目は、測定項目の全てで環境基準に適合している。

また、名古屋港における令和 2 年度の溶存酸素濃度調査結果は、表 1-4-6 に示すとおりである。

表 1-4-5(1) 水質調査結果（生活環境項目）[河川]（令和 2 年度）

| 項目 | 調査地点 | 水域 | 堀川 | 山崎川 | 天白川 |
|--------------------|-------|----|----------------------|----------------------|-----------------|
| | 地点名 | | 港新橋 | 道德橋 | 千鳥橋 |
| | 類型 | | D・生物 B | D・生物 B | C・生物 B |
| | 区分 | | ☆☆ | ☆ | ☆☆ |
| pH | 年平均値 | | 7.5 | 7.5 | 7.4 |
| | 最小～最大 | | 7.2～8.3 | 7.0～8.6 | 7.0～7.8 |
| DO (mg/L) | 年平均値 | | 6.0 | 5.9 | 6.5 |
| | 最小～最大 | | 3.2～12 | 2.7～18 | 3.5～10 |
| BOD (mg/L) | 75%値 | | 4.7 | 4.4 | 4.0 |
| | 最小～最大 | | 1.1～11 | 2.1～18 | 0.9～6.1 |
| SS (mg/L) | 年平均値 | | 5 | 5 | 7 |
| | 最小～最大 | | 2～15 | 2～18 | 3～13 |
| 全窒素 (mg/L) | 年平均値 | | 3.0 | 3.9 | 4.4 |
| | 最小～最大 | | 2.1～3.9 | 1.2～5.6 | 1.8～5.8 |
| 全リン (mg/L) | 年平均値 | | 0.21 | 0.16 | 0.28 |
| | 最小～最大 | | 0.13～0.33 | 0.12～0.20 | 0.13～0.37 |
| 全亜鉛 (mg/L) | 年平均値 | | 0.029 | 0.019 | 0.021 |
| | 最小～最大 | | 0.019～0.043 | 0.008～0.029 | 0.009～0.032 |
| ノニルフェノール (mg/L) | 年平均値 | | 0.00009 | 0.00009 | 0.00016 |
| | 最小～最大 | | <0.00006～ 0.00018 | <0.00006～ 0.00015 | 0.00006～0.00029 |
| LAS (mg/L) | 年平均値 | | 0.0061 | 0.0045 | 0.014 |
| | 最小～最大 | | <0.0006～0.033 | <0.0006～0.021 | <0.0006～0.099 |

注)1:環境基準及び環境目標値は、資料 2-1 1 (資料編 p.27) 参照。

2:最小～最大は、日平均値の最小値、最大値を示す。

3:類型について、「C及びD」は pH、DO、BOD、SS に、「生物 B」は全亜鉛、ノニルフェノール、LAS に係る。

4:「区分」は、名古屋市の水質汚濁に係る環境目標値に基づく地域区分を示す。

5:網掛は、pH については環境基準の値もしくは環境目標値の範囲を超過していることを、DO については環境基準の値もしくは環境目標値の値未満であることを、BOD、全亜鉛、LAS については環境基準の値もしくは環境目標値の範囲を超過していることを示す。

6:「<」は、報告下限値未満であることを示す。

出典)「令和 2 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 1-4-5(2) 水質調査結果（生活環境項目）〔海域〕（令和 2 年度）

| 調査地点 項目 | 水域 | 名古屋港 | 名古屋港 | 名古屋港 |
|--------------------|-------|-------------|-------------|-------------|
| | 地点名 | 潮見ふ頭北 | N-1 潮見ふ頭西 | M-1 ガーデンふ頭 |
| | 類型 | C・IV・生物 A | C・IV・生物 A | C・IV・生物 A |
| | 区分 | ☆ | ☆ | ☆ |
| pH | 年平均値 | 8.2 | 8.1 | 8.1 |
| | 最小～最大 | 7.8～8.8 | 7.6～8.9 | 7.6～8.9 |
| DO (mg/L) | 年平均値 | 9.0 | 7.1 | 6.3 |
| | 最小～最大 | 3.7～12 | 1.6～16 | <0.5～17 |
| COD (mg/L) | 75%値 | 4.7 | 5.0 | 4.8 |
| | 最小～最大 | 1.6～6.6 | 1.5～9.1 | 1.6～8.1 |
| SS (mg/L) | 年平均値 | 5 | 6 | 5 |
| | 最小～最大 | 2～10 | 2～18 | 1～13 |
| 全窒素 (mg/L) | 年平均値 | 1.2 | 1.1 | 1.2 |
| | 最小～最大 | 0.85～2.5 | 0.58～2.2 | 0.81～1.8 |
| 全リン (mg/L) | 年平均値 | 0.11 | 0.11 | 0.12 |
| | 最小～最大 | 0.069～0.21 | 0.056～0.28 | 0.052～0.21 |
| 全亜鉛 (mg/L) | 年平均値 | 0.010 | 0.011 | 0.010 |
| | 最小～最大 | 0.006～0.016 | 0.007～0.017 | 0.007～0.016 |
| ノニルフェノール (mg/L) | 年平均値 | <0.00006 | <0.00006 | <0.00006 |
| | 最小～最大 | <0.00006 | <0.00006 | <0.00006 |
| LAS (mg/L) | 年平均値 | <0.0006 | <0.0006 | <0.0006 |
| | 最小～最大 | <0.0006 | <0.0006 | <0.0006 |

注)1:環境基準及び環境目標値は、資料 2-1-1（資料編 p.27）参照。

2:最小～最大は、日平均値の最小値、最大値を示す。

3:類型について、「C」は pH、DO、COD に、「IV」は全窒素、全リンに、「生物 A」は全亜鉛、ノニルフェノール、LAS に係る。

4:「区分」は、名古屋市の水質汚濁に係る環境目標値に基づく地域区分を示す。

5:網掛は、pH については環境基準の値もしくは環境目標値の範囲を超過していることを、DO については環境基準の値もしくは環境目標値の値未満であることを、SS については環境目標値の値を超過していることを、COD、全窒素、全リンについては環境基準の値もしくは環境目標値の値を超過していることを示す。

6:「<」は、報告下限値未満であることを示す。

出典)「令和 2 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 1-4-5(3) 水質調査結果（健康項目）〔河川〕（令和2年度）

| 項目 | 調査地点 | 堀川 | 山崎川 | 天白川 | 環境基準 |
|-------------------|--------|---------|---------|---------|----------|
| | | 港新橋 | 道徳橋 | 千鳥橋 | |
| カドミウム | (mg/L) | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | 0.003以下 |
| 全シアン | (mg/L) | ND | ND | ND | 検出されないこと |
| 鉛 | (mg/L) | <0.005 | <0.005 | <0.005 | 0.01以下 |
| 六価クロム | (mg/L) | <0.01 | <0.01 | <0.01 | 0.05以下 |
| 砒素 | (mg/L) | <0.005 | <0.005 | <0.005 | 0.01以下 |
| 総水銀 | (mg/L) | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | 0.0005以下 |
| アルキル水銀 | (mg/L) | ND | ND | ND | 検出されないこと |
| PCB | (mg/L) | ND | ND | ND | 検出されないこと |
| ジクロロメタン | (mg/L) | <0.002 | <0.002 | <0.002 | 0.02以下 |
| 四塩化炭素 | (mg/L) | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | 0.002以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | (mg/L) | <0.0004 | <0.0004 | <0.0004 | 0.004以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | (mg/L) | <0.01 | <0.01 | <0.01 | 0.1以下 |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | (mg/L) | <0.004 | <0.004 | <0.004 | 0.04以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | (mg/L) | <0.1 | <0.1 | <0.1 | 1以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | (mg/L) | <0.0006 | <0.0006 | <0.0006 | 0.006以下 |
| トリクロロエチレン | (mg/L) | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.01以下 |
| テトラクロロエチレン | (mg/L) | <0.0005 | <0.0005 | <0.0005 | 0.01以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン | (mg/L) | <0.0002 | <0.0002 | <0.0002 | 0.002以下 |
| チウラム | (mg/L) | <0.0006 | <0.0006 | <0.0006 | 0.006以下 |
| シマジン | (mg/L) | <0.0003 | <0.0003 | <0.0003 | 0.003以下 |
| チオベンカルブ | (mg/L) | <0.002 | <0.002 | <0.002 | 0.02以下 |
| ベンゼン | (mg/L) | <0.001 | <0.001 | <0.001 | 0.01以下 |
| セレン | (mg/L) | <0.002 | <0.002 | <0.002 | 0.01以下 |
| 硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素 | (mg/L) | 1.1 | 0.28 | 1.8 | 10以下 |
| ふっ素 | (mg/L) | — | — | — | 0.8以下 |
| ほう素 | (mg/L) | — | — | — | 1以下 |
| 1,4-ジオキサン | (mg/L) | <0.005 | <0.005 | <0.005 | 0.05以下 |

注)1:「—」は、測定が行われていない項目である。

2:「ND」及び「<」は、報告下限値未満であることを示す。

3:「検出されないこと」とは、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

4:六価クロムの環境基準は、令和4年4月1日より、0.02mg/L以下に変更された。

出典)「令和2年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 1-4-5(4) 水質調査結果（健康項目）〔海域〕（令和2年度）

| 項目 | 調査地点 | 名古屋港 | 名古屋港 | 環境基準 |
|-------------------|--------|--------------|---------------|----------|
| | | N-1 潮見ふ頭西 | M-1 ガーデンふ頭 | |
| カドミウム | (mg/L) | <0.0005 | <0.0005 | 0.003以下 |
| 全シアン | (mg/L) | ND | ND | 検出されないこと |
| 鉛 | (mg/L) | <0.005 | <0.005 | 0.01以下 |
| 六価クロム | (mg/L) | <0.01 | <0.01 | 0.05以下 |
| 砒素 | (mg/L) | <0.005 | <0.005 | 0.01以下 |
| 総水銀 | (mg/L) | <0.0005 | <0.0005 | 0.0005以下 |
| アルキル水銀 | (mg/L) | — | — | 検出されないこと |
| PCB | (mg/L) | ND | — | 検出されないこと |
| ジクロロメタン | (mg/L) | <0.002 | — | 0.02以下 |
| 四塩化炭素 | (mg/L) | <0.0002 | — | 0.002以下 |
| 1,2-ジクロロエタン | (mg/L) | <0.0004 | — | 0.004以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン | (mg/L) | <0.01 | — | 0.1以下 |
| シス-1,2-ジクロロエチレン | (mg/L) | <0.004 | — | 0.04以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン | (mg/L) | <0.1 | — | 1以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン | (mg/L) | <0.0006 | — | 0.006以下 |
| トリクロロエチレン | (mg/L) | <0.001 | — | 0.01以下 |
| テトラクロロエチレン | (mg/L) | <0.0005 | — | 0.01以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン | (mg/L) | <0.0002 | — | 0.002以下 |
| チウラム | (mg/L) | <0.0006 | — | 0.006以下 |
| シマジン | (mg/L) | <0.0003 | — | 0.003以下 |
| チオベンカルブ | (mg/L) | <0.002 | — | 0.02以下 |
| ベンゼン | (mg/L) | <0.001 | — | 0.01以下 |
| セレン | (mg/L) | <0.002 | — | 0.01以下 |
| 硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素 | (mg/L) | — | — | 10以下 |
| ふっ素 | (mg/L) | — | — | 0.8以下 |
| ほう素 | (mg/L) | — | — | 1以下 |
| 1,4-ジオキサン | (mg/L) | <0.005 | — | 0.05以下 |

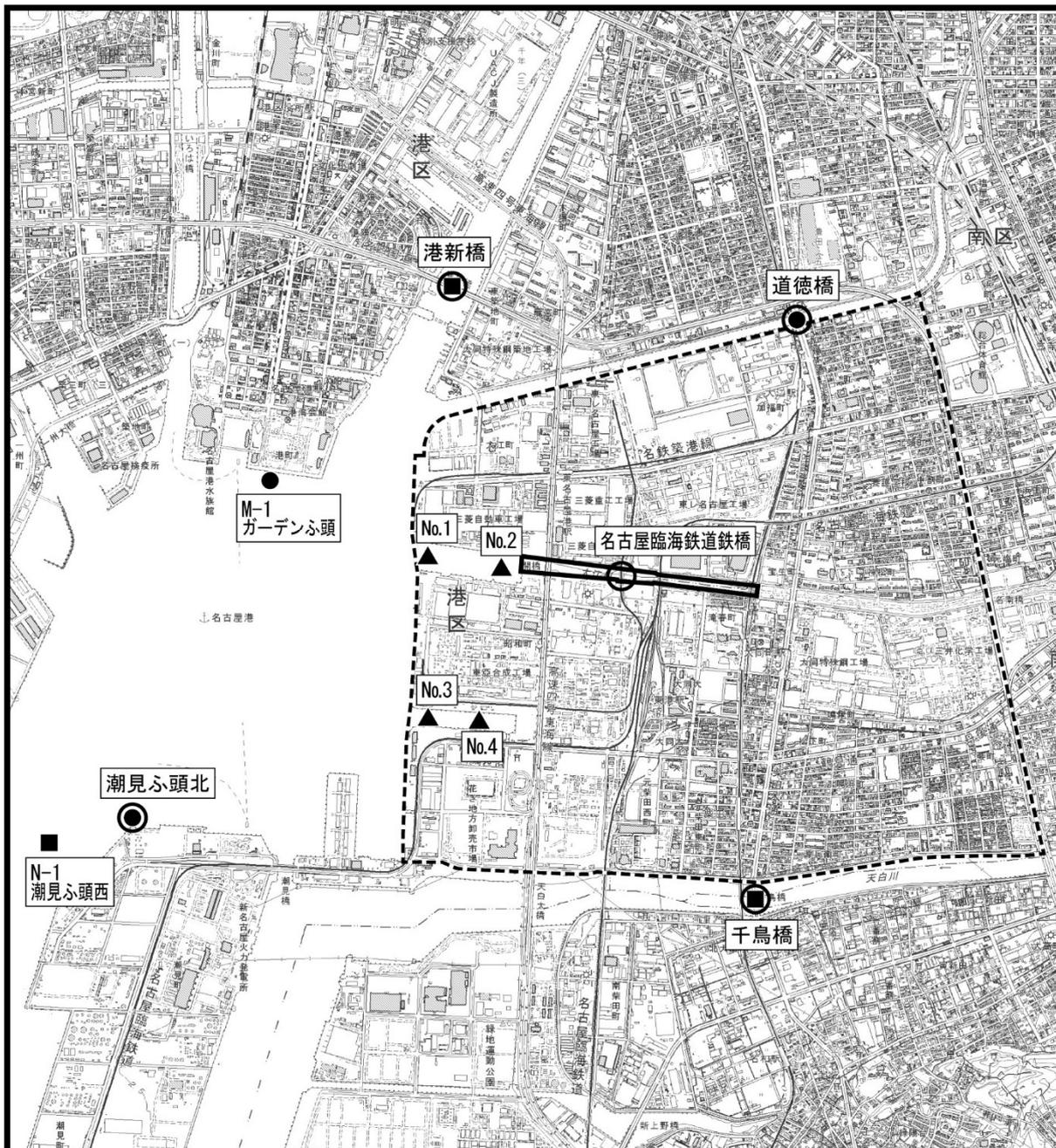
注)1:「—」は、測定が行われていない項目である。

2:「ND」及び「<」は、報告下限値未満であることを示す。

3:「検出されないこと」とは、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

4:六価クロムの環境基準は、令和4年4月1日より、0.02mg/L以下に変更された。

出典)「令和2年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)



- | | |
|---|---|
|  事業予定地 |  水質調査地点 |
|  調査地域 |  水質・底質調査地点 |
| |  底質調査地点 |
| |  ダイオキシン類調査地点 |

注) 本図面は、調査地域周辺の水質・底質の状況がわかるよう、調査地域及びその周辺(本図面枠内)の調査地点を示している。

出典) 「令和2年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」

(名古屋市ウェブサイト)

「令和2年度ダイオキシン類調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

「令和2年度大江川の水質常時監視調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

「令和3年版名古屋市環境白書(資料編)」(名古屋市ウェブサイト)



0 350 700m

1/35,000

図 1-4-14 水質・底質及びダイオキシン類調査地点

表 1-4-6 溶存酸素濃度調査結果（令和 2 年度）

単位：mg/L

| 調査地点 | 採取位置 | 平均 | 最小 | 最大 |
|---------------|------|-----|------|-----|
| 潮見ふ頭北 | 底層 | 6.8 | 3.7 | 8.8 |
| | 表層 | 9.4 | 6.2 | 12 |
| | 中層 | 8.3 | 6.3 | 10 |
| N-1 潮見ふ頭西 | 底層 | 4.4 | 1.6 | 7.6 |
| | 表層 | 10 | 6.4 | 16 |
| | 中層 | 6.4 | 3.2 | 9.0 |
| M-1 ガーデンふ頭 | 底層 | 2.9 | <0.5 | 5.7 |
| | 表層 | 10 | 5.8 | 17 |
| | 中層 | 5.7 | 2.1 | 8.7 |

注) 底層は海底上 0.5m、表層は水面下 0.5m、中層は水面下 5.0mで測定している。

出典)「令和 2 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」

(名古屋市ウェブサイト)

(イ) ダイオキシン類

ダイオキシン類の調査結果は表 1-4-7 に、調査地点は前掲図 1-4-14 に示すとおりである。

調査地域及びその周辺におけるダイオキシン類の調査は、港新橋、道德橋、千鳥橋及び潮見ふ頭北で行われている。令和 2 年度の調査結果は、全ての地点で環境基準に適合している。

また、調査地域の報告対象事業場における排出水の測定結果は、表 1-4-8 に示すとおりである。令和 2 年度の報告では、全ての事業場で排出基準を下回っている。

大江川では、平成 12 年にダイオキシン類による高濃度汚染が明らかになって以降、ダイオキシン類の調査が名古屋臨海鉄道鉄橋において行われている。令和 2 年度の調査結果は、年間平均値で 0.21pg-TEQ/L であり環境基準に適合している。

また、平成 12～令和 2 年度におけるダイオキシン類の経年変化は、図 1-4-15 に示すとおりであり、名古屋臨海鉄道鉄橋の調査結果は、平成 16 年度以降は、平成 22 年度を除き環境基準に適合している。

表 1-4-7 ダイオキシン類調査結果[水質]（令和 2 年度）

| 区分 | 調査地点 | 年間平均値 (pg-TEQ/L) | 環境基準 |
|----|-------|---------------------|--------------|
| 河川 | 港新橋 | 0.045 | 1pg-TEQ/L 以下 |
| | 道德橋 | 0.057 | |
| | 千鳥橋 | 0.076 | |
| 海域 | 潮見ふ頭北 | 0.047 | |

出典)「令和 2 年度ダイオキシン類調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 1-4-8(1) ダイオキシン類事業者測定結果（排出水）（令和 2 年度）

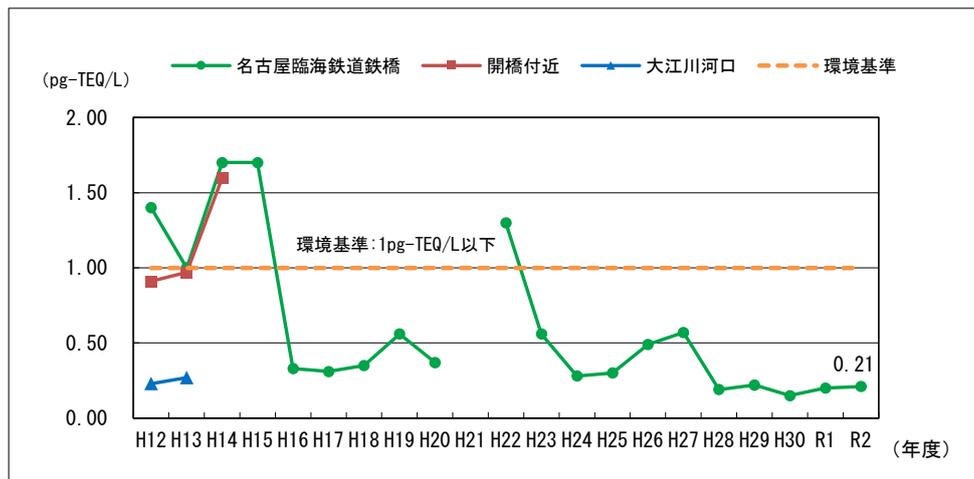
| 事業場 | 測定結果 (pg-TEQ/L) | 採取年月日 | 排出基準 |
|--------------------|--------------------|---------|------------------|
| 中部リサイクル株式会社 | 0.000030 | R2.6.11 | 10pg-TEQ/L 以下 |
| 東亜合成株式会社名古屋工場 | 0.16 | R2.8.21 | |
| 東レ株式会社名古屋事業場 | 0.15 | R2.9.1 | |
| 名古屋市上下水道局柴田水処理センター | 0.00038 | R2.9.15 | |

出典)「令和 2 年度ダイオキシン類調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 1-4-8(2) 行政検査によるダイオキシン類測定結果（排出水）（令和 2 年度）

| 事業場 | 測定結果 (ng-TEQ/m ³ N) | 採取年月日 | 排出基準 |
|-------------|-----------------------------------|---------|---------------|
| 中部リサイクル株式会社 | 0.00015 | R2.9.10 | 10pg-TEQ/L 以下 |

出典)「令和 2 年度ダイオキシン類調査結果」(名古屋市ウェブサイト)



注) 対策前の調査結果は、下表のとおりである。

単位: pg-TEQ/L

| 調査地点 | H12.2.18 | H12.4.14 | H12.6.2 |
|-------------|----------|----------|---------|
| 名鉄常滑線鉄橋付近 | 23 | 21 | 0.97 |
| 名古屋臨海鉄道鉄橋付近 | - | - | 25 |
| 開橋付近 | 3.8 | 1.6 | 6.0 |
| 大江川河口 | - | - | 0.57 |

出典)「大江川ダイオキシン類調査結果」

(名古屋市ウェブサイト)

図 1-4-15 大江川におけるダイオキシン類（水質）の経年変化

ウ 底 質

調査地域及びその周辺における底質調査地点は前掲図 1-4-14 に、令和 2 年度の調査結果は、表 1-4-9 に示すとおりである。

また、調査地域及びその周辺におけるダイオキシン類の調査結果は、表 1-4-10 に示すとおりであり、令和 2 年度の調査結果では、全ての地点で環境基準に適合している。

なお、大江川下流部における底泥の有害物質汚染状況については、第 2 章 2-2 (2) ウ「大江川下流部における底泥の有害物質汚染状況」(p.7 参照) に示すとおりである。

表 1-4-9(1) 底質調査結果 (令和 2 年度)

| 項目 | 調査地点 | 大江川河口域 | | 昭和・船見ふ頭間運河 | |
|-----|---------|--------|------|------------|------|
| | | No.1 | No.2 | No.3 | No.4 |
| 総水銀 | (mg/kg) | 1.3 | 1.5 | 1.0 | 4.6 |
| PCB | (mg/kg) | 1.3 | 1.9 | — | — |

注)「—」は、測定を行っていないことを示す。

出典)「令和3年版 名古屋市環境白書 (資料編)」(名古屋市ウェブサイト)

表 1-4-9(2) 底質調査結果 (令和 2 年度)

| 項目 | 調査地点 | 堀川 | 天白川 | 名古屋港 |
|-------|--------|-------------|-------|--------------|
| | | 港新橋 | 千鳥橋 | N-1 潮見ふ頭西 |
| 一般項目 | pH | 7.5 | 7.5 | 7.7 |
| | COD | (mg/g) 38 | 30 | 25 |
| | 全硫化物 | (mg/g) 2.1 | 3.1 | 1.8 |
| | ヨウ素消費量 | (mg/g) 22 | 18 | 22 |
| 健康項目 | カドミウム | (ppm) 4.2 | 0.55 | 1.0 |
| | 全シアン | (ppm) <0.5 | <0.5 | <0.5 |
| | 鉛 | (ppm) 150 | 34 | 54 |
| | 砒素 | (ppm) 15 | 5.7 | 11 |
| | 総水銀 | (ppm) 0.03 | 0.06 | 0.39 |
| | アルキル水銀 | (ppm) <0.01 | <0.01 | <0.01 |
| | PCB | (ppm) 0.15 | 0.01 | 0.03 |
| 特殊項目等 | フェノール類 | (ppm) 0.2 | 0.3 | 0.2 |
| | 銅 | (ppm) 370 | 85 | 88 |
| | 亜鉛 | (ppm) 1,600 | 460 | 430 |
| | 総クロム | (ppm) 420 | 65 | 92 |
| | 全窒素 | (ppm) 1,800 | 1,200 | 1,200 |
| | 全燐 | (ppm) 930 | 710 | 400 |

注)1:「<」は、測定下限値未満であることを示す。

2: 暫定除去基準は、PCBは10ppm(mg/kg)、水銀(河川及び湖沼)は25ppm(mg/kg)である。

出典)「令和2年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」

(名古屋市ウェブサイト)

表 1-4-10 ダイオキシン類調査結果[底質] (令和2年度)

| 区分 | 調査地点 | 調査結果 (pg-TEQ/g) | 環境基準 |
|----|-------|--------------------|----------------|
| 河川 | 港新橋 | 52 | 150pg-TEQ/g 以下 |
| | 道徳橋 | 16 | |
| | 千鳥橋 | 11 | |
| 海域 | 潮見ふ頭北 | 23 | |

出典)「令和2年度ダイオキシン類調査結果」(名古屋市ウェブサイト)

エ 地下水

調査地域及びその周辺における、地下水調査の結果は表 1-4-11 に示すとおりである。

令和 2 年度の調査では、南区三条一丁目の砒素及び南区要町のクロロエチレンが環境基準に適合していない。

表 1-4-11(1) 地下水調査結果（令和 2 年度）

| 調査区分 | 概況定点 | 環境基準 |
|-----------------------|---------------------|-----------|
| 調査地点 | 4 | |
| 採水年月日 | 南区立脇町 R2. 11. 26 | |
| カドミウム (mg/L) | <0.0005 | 0.003 以下 |
| 全シアン (mg/L) | <0.1 | 検出されないこと |
| 鉛 (mg/L) | <0.005 | 0.01 以下 |
| 六価クロム (mg/L) | <0.01 | 0.05 以下 |
| 砒素 (mg/L) | <0.005 | 0.01 以下 |
| 総水銀 (mg/L) | <0.0005 | 0.0005 以下 |
| アルキル水銀 (mg/L) | — | 検出されないこと |
| PCB (mg/L) | <0.0005 | 検出されないこと |
| ジクロロメタン (mg/L) | <0.002 | 0.02 以下 |
| 四塩化炭素 (mg/L) | <0.0002 | 0.002 以下 |
| クロロエチレン (mg/L) | <0.0002 | 0.002 以下 |
| 1,2-ジクロロエタン (mg/L) | <0.0004 | 0.004 以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン (mg/L) | <0.01 | 0.1 以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン (mg/L) | <0.004 | 0.04 以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン (mg/L) | <0.0005 | 1 以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン (mg/L) | <0.0006 | 0.006 以下 |
| トリクロロエチレン (mg/L) | <0.001 | 0.01 以下 |
| テトラクロロエチレン (mg/L) | <0.0005 | 0.01 以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン (mg/L) | <0.0002 | 0.002 以下 |
| チウラム (mg/L) | <0.0006 | 0.006 以下 |
| シマジン (mg/L) | <0.0003 | 0.003 以下 |
| チオベンカルブ (mg/L) | <0.002 | 0.02 以下 |
| ベンゼン (mg/L) | <0.001 | 0.01 以下 |
| セレン (mg/L) | <0.002 | 0.01 以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L) | 0.11 | 10 以下 |
| ふっ素 (mg/L) | 0.10 | 0.8 以下 |
| ほう素 (mg/L) | <0.02 | 1 以下 |
| 1,4 ジオキサン (mg/L) | <0.005 | 0.05 以下 |

注)1: 「<」は測定下限値未満であること、「—」は測定を行っていないことを示す。

2: 環境基準欄の「検出されないこと」とは、全シアンについては 0.1mg/L 未満、アルキル水銀及び PCB については 0.0005mg/L 未満であることを示す。

3: 六価クロムの環境基準は、令和 4 年 4 月 1 日より、0.02mg/L 以下に変更された。

出典)「令和 2 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 1-4-11(2) 地下水調査結果（令和2年度）

| 調査区分 | 定期モニタリング調査 | | | 環境基準 |
|-----------------------|------------|---------|---------|-----------|
| | 50 | 51 | 71 | |
| 調査地点 | 南区三条一丁目 | 南区三条一丁目 | 南区要町 | |
| 採水年月日 | R3.2.26 | R3.2.26 | R3.3.15 | |
| カドミウム (mg/L) | — | — | — | 0.003 以下 |
| 全シアン (mg/L) | — | — | — | 検出されないこと |
| 鉛 (mg/L) | — | — | — | 0.01 以下 |
| 六価クロム (mg/L) | — | — | — | 0.05 以下 |
| 砒素 (mg/L) | 0.011 | 0.011 | — | 0.01 以下 |
| 総水銀 (mg/L) | — | — | — | 0.0005 以下 |
| アルキル水銀 (mg/L) | — | — | — | 検出されないこと |
| PCB (mg/L) | — | — | — | 検出されないこと |
| ジクロロメタン (mg/L) | — | — | — | 0.02 以下 |
| 四塩化炭素 (mg/L) | — | — | — | 0.002 以下 |
| クロロエチレン (mg/L) | — | — | 0.0029 | 0.002 以下 |
| 1,2-ジクロロエタン (mg/L) | — | — | — | 0.004 以下 |
| 1,1-ジクロロエチレン (mg/L) | — | — | — | 0.1 以下 |
| 1,2-ジクロロエチレン (mg/L) | — | — | — | 0.04 以下 |
| 1,1,1-トリクロロエタン (mg/L) | — | — | — | 1 以下 |
| 1,1,2-トリクロロエタン (mg/L) | — | — | — | 0.006 以下 |
| トリクロロエチレン (mg/L) | — | — | — | 0.01 以下 |
| テトラクロロエチレン (mg/L) | — | — | — | 0.01 以下 |
| 1,3-ジクロロプロペン (mg/L) | — | — | — | 0.002 以下 |
| チウラム (mg/L) | — | — | — | 0.006 以下 |
| シマジン (mg/L) | — | — | — | 0.003 以下 |
| チオベンカルブ (mg/L) | — | — | — | 0.02 以下 |
| ベンゼン (mg/L) | — | — | — | 0.01 以下 |
| セレン (mg/L) | — | — | — | 0.01 以下 |
| 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L) | — | — | — | 10 以下 |
| ふっ素 (mg/L) | — | — | — | 0.8 以下 |
| ほう素 (mg/L) | — | — | — | 1 以下 |
| 1,4 ジオキサン (mg/L) | — | — | — | 0.05 以下 |

注)1:「<」は測定下限値未満であること、「—」は測定を行っていないことを示す。

2:環境基準欄の「検出されないこと」とは、全シアンについては0.1mg/L未満、アルキル水銀及びPCBについては0.0005mg/L未満であることを示す。

3:網掛は、環境基準に適合していないことを示す。

4:六価クロムの環境基準は、令和4年4月1日より、0.02mg/L以下に変更された。

出典)「令和2年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)